

平成22年度一般会計補正予算説明資料

7款 商工費
1項 商業費
2目 商業振興費

経済通商総室[企画調査室] (内線:7890)
(単位:千円)

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)SC鳥取出資事業	0	20,000	20,000			〈雑入〉 20,000		
トータルコスト	0	20,000	20,000	(補正に係る主な業務内容) 株式会社SC鳥取への出資事業				
従事する職員数	0人	0人	0人					
工程表の政策目標(指標)	—							

説明

1 事業の目的・概要

株式会社SC鳥取へ出資し、山陰初のJリーグチーム誕生を支援する。

2 主な事業内容

(1) 出資金額 20百万円

・株式会社SC鳥取(ガイナレ鳥取)が安定経営を行うため、債務超過(53百万円)の解消及び安定的経営に必要な資金(53百万円〔オフシーズン中の運転資金等〕)の一部として出資。

・株式会社SC鳥取の増資活動

地方公共団体70百万円(※) + 民間60百万円 = 130百万円

(※) 内訳⇒鳥取県、鳥取市、米子市:各20百万円、倉吉市、境港市:各5百万円

(2) 出資の時期 平成22年12月

(3) 財源 バードスタジアム国際交流基金

【バードスタジアム国際交流基金の概要】

目的: とりぎんバードスタジアムを活用し、サッカーを通じた子ども達の国際感覚の醸成と国内外への情報発信を行う

造成時期: 平成7年

造成額: 400百万円(内訳: 鳥取県200百万円、鳥取市200百万円)

基金残高: 337百万円(運用益を除く)

平成14年度に元金63百万円の基金取崩し実施

(2002FIFAワールドカップのエクアドル代表チームの招致経費)

運用益: 4百万円(普通預金利息)

3 出資理由

(1) 株式会社SC鳥取(ガイナレ鳥取)は、「ホームタウンに根ざし、ホームタウンと共に成長する」という公益性が高いクラブ理念を有していること。

(2) 全県をホームタウンとしており、全県民に多様な波及効果が期待できること。

〔期待される波及効果〕

県民・地域の一体感形成、賑わい創出、全国への情報発信・イメージアップ、スポーツ振興、経済効果など

(3) 株式会社SC鳥取(ガイナレ鳥取)が、Jリーグで持続的に活動するためには財務基盤の強化が必要であること。

〔Jリーグ入会予備審査における指摘(H22.8.30(社)日本プロサッカーリーグ)〕

・「より長期的な視野を持って、財務基盤の強化など、健全な経営環境の整備に不断の努力を行うこと」を求められている。

4 既出資状況

平成19年に、ガイナレ鳥取の支援と企業等による出資の呼び水として出資。

〔出資の額〕 10,000千円(一般財源)(200株)

〔出資の日〕 平成19年8月30日

⇒ 今シーズンに入り企業等の出資が着実に増えクラブ経営の改善したものの、引き続き、債務超過解消や財政基盤強化という課題への対応が必要な状況。